

## 令和5年度における 「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」に基づく主な取組

### 1 脱炭素化・環境負荷低減に向けた「資材調達」の促進

#### (1) 省エネ化・低コスト化推進

- 国際情勢の変化を背景に燃料価格が高騰・高止まりする中、施設園芸農業者に対し、複数の温度設定が可能な多段サーモ装置や外張被覆・内張カーテン等の活用により適切な温度管理や保温性の向上を図るための取組を推進した。

化石燃料使用量を15%以上削減省エネ対策実践施設園芸(加温)農業者割合(%)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
77	91	95

#### (2) 農村地域における自然エネルギーの活用

- 土地改良施設等を活用した小水力発電の普及促進を図るために、市町村や関係者への説明や、現地調査を行い、勝浦町坂本地区において、小水力発電施設が1施設整備された。

土地改良施設等を活用した自然エネルギー利用発電施設の導入地区数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
11地区	12地区	16地区

- 農業の健全発展と再生可能エネルギーの導入促進の両立が期待できる営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)について、下部農地での営農が良好に継続されており、売電収入が営農者の所得向上に寄与する優良モデル事例を1件選定し、関係機関との事例共有等を行った。

県内ソーラーシェアリング優良モデル事例数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
—	1	5

#### (3) 耕畜連携による飼料自給率向上の推進

- 畜産農家からの需要に対応するため、飼料用米やWCS(ホイールクroppサイレージ)用稲等の生産を推進するとともに、国産飼料の利用拡大に向けた畜産農家への技術指導や啓発、耕種農家とのマッチングを行った。

飼料用米・飼料用稲等利用農家割合(%)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
12	13.4	17

#### (4) J-クレジット制度の活用拡大

- 県有林等の公的管理森林において、適切な森林管理を行い温室効果ガスの排出を削減するとともに、削減・吸収した温室効果ガスの排出量を「J-クレジット」として民間企業等への売却が行えるよう、令和6年度にJ-クレジットプロジェクトを創設することを目指し、対象となる森林の確定や先行事例調査等を行った。

##### J-クレジットプロジェクトの創設

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和6年度)
—	調査	創設

## 2 高い生産性と両立する「持続的生産体制」への転換

### (1) Society5.0 に対応する高品質生産・省力化技術の実装

- すだちのドローン防除やかんしょの貯蔵環境の最適化技術に関する実証試験を行うとともに、生産者に対し、実証結果の情報提供や技術習得支援を行った。

##### スマート化技術導入経営体数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
63	95	145

### (2) 農地中間管理機構と連携した農地集積・集約化及びほ場整備の推進

- 担い手への農地の集積・集約やスマート農業の導入による省力化に向けた農地の大区画化や農業用水のパイプライン化などの農業生産基盤整備を計画的に進めるため、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用したほ場整備を実施した(阿南市八幡地区・31ha)。

##### 農地中間管理機構と連携したほ場整備実施地区数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
3	5	8

### (3) 「とくしま農林水産未来人材スクール」における人材育成

- 「とくしま農林水産未来人材スクール」において、農林水産業の新規就業を支援する「かんきつアカデミー」、「林業アカデミー」、「漁業アカデミー」とともに、多様な担い手の育成強化のための「アグリビジネスアカデミー」、「林業リカレント教育」、「漁業リカレント教育」の各種講座を展開し、研修・カリキュラム等の充実や情報発信を行った。

##### 農林水産業リカレント教育修了者数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
1,328	2,110	2,850

#### (4) エシカル農業の推進

- 化学肥料・化学農薬の使用量低減と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全に資する営農活動を支援するとともに、有機 JAS 認証の取得に向けた指導ができる専門指導員の育成、有機農業や IPM(総合的病害虫雑草管理)に関するセミナー、有機 JAS をはじめとした認証の取得支援を行った。

##### エシカル農産物の生産面積(ha)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
1,787	2,026	2,400

- 有機農業の生産から有機農産物の消費までを一貫し、事業者や地域内外の消費者とともに推進するモデル地区を創出するための有機農業産地づくりや、環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を組み合わせた栽培体系への転換等を支援した。

##### 環境負荷低減・食育に取り組むモデル地区創出(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
—	3	17

- みどりの食料システム法に基づく「環境負荷低減事業活動実施計画」の認定を受けることによる税制・融資の特例や補助事業の優先採択等の優遇措置について研修会等を通じて周知するとともに、計画認定を受ける場合に必要となる土壌診断の実施を支援した。

##### 環境負荷低減事業活動実施計画認定数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
—	164	750

#### (5) 環境負荷低減に資する新技術の開発普及

- 繁殖和牛の夏季の受胎率を向上させる効率的な飼養管理等の技術の開発や、早生のれんこん品種「阿波白秀」の最適な施肥技術の実証試験を行うとともに、生産者に対し、研究成果の情報提供や技術習得支援を行った。

##### 農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
39	53	81

(6) 間伐等による健全な森林の整備

- 「とくしま協働の森づくり事業」として、「SDGs 森づくり宣言」を行った企業・団体の寄付等により、間伐、植栽などの森林整備（151ha）や、県産材の木製品を製作して保育園等への寄贈を行い、二酸化炭素の吸収や水資源の確保につながる公益的機能の高い豊かな森林を次世代に引き継ぐ取組を進めた。

SDGs 森林づくり宣言企業・団体数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
20	144	95

(7) 「森林サイクル」の確立による効率的な林業施策の展開

- 伐採から再造林、保育までの「森林サイクル」の確立による県産材の更なる増産のために、航空測量データ解析により主伐を加速するとともに、速やかな森林再生に向け、苗木生産技術の向上指導や、花粉症対策苗木への植え替え事業を行い、花粉が少なく成長が早いエリートツリーの植栽を推進した。

人工造林に占めるエリートツリーの割合(%)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
—	43	50

(8) 水産資源の持続的な利用推進

- 魚介類の産卵場や稚魚の保護・育成場、アワビやサザエの餌場となる藻場の造成(牟岐工区において2箇所・0.2ha)を行った。

藻場造成箇所数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
28	31	38

(9) 水産業における安定的な生産・供給体制の確立

- 海洋環境の変化により貧栄養化が進む海域において藻類養殖業の実現を図るため、施肥の実証実験を行い、マニュアルを作成するとともに、高水温に強く色落ちしにくいワカメの新品種の実証試験を行った。

養殖業での海洋環境変化に対応した新技術の導入数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
—	実証試験	2

### 3 環境に配慮した「加工・流通システム」の促進

#### (1) 地産地消による流通コスト及び温室効果ガスの排出量の削減

- 地産地消や食育を推進するためのホームページ「とくしまの食育応援団」で、県下の地産地消・食育イベント情報や地産地消協力店について情報発信するとともに、学校給食等での県産農産物の活用推進、「地産地消協力店」による県産品の消費拡大や消費者への情報提供などに取り組んだ。

#### (2) 物流体系の転換促進

- 県内3JAによる関東向けブロッコリーの共同出荷に関する実証を支援するとともに、物流2024問題の対策に向けた機運醸成を図るため、荷主事業者や運送事業者等を対象としたシンポジウムを開催した。

#### (3) 水産物出荷・流通体制の効率化

- 阿南市・椿泊漁港において、産地市場の統合と電子入札システムの導入により流通の効率化を図るため、大規模太陽光発電による省エネ型の高度衛生管理型荷さばき施設の整備を推進した。

流通拠点漁港(高度衛生管理型荷さばき施設)の整備

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)
—	実施設計	供用

### 4 環境配慮型の生産を支える「消費」の拡大

#### (1) エシカル消費の普及推進

- 消費者向けイベントにおいてエシカル農産物のPRを実施するとともに、有機農産物の学校給食での活用、加工食品の開発や商談会への出展等を支援した。
- 人や社会、環境に配慮した消費行動であるエシカル消費を、県民の暮らしに浸透、定着させるため、消費者教育や「とくしまSDGsシンポジウム」等を実施するとともに、食品ロスの削減や、リサイクル等に取り組む事業者の「とくしまエシカル消費自主宣言(年度末78団体)」を増加させることにより、エシカル消費を実践する環境づくりに努めた。

エシカル消費の実践意欲度(%)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)
50.8	65	80

## (2) 食品ロスの削減

- 県民の食品ロス削減への意識醸成及び行動変容を促進するため、店頭やイベント会場における食品ロス削減の啓発キャンペーンや啓発講座、啓発パネル展を多数実施したほか、県東部・南部・西部の各地域において、関係団体との連携・協働のもと、フードドライブやフードバンク活動を推進した。

食品ロス削減の啓発活動の実施数(累計)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和8年度)
60	217	160

## (3) 食料生産から消費に至る「食」の循環を意識した食育の推進

- 学校給食において、地域の自然や文化、生産者等への理解を深め、輸送に伴う環境負荷の低減にもつながる、地場産物の使用を推進するため、栄養教諭や学校栄養職員に対する和食献立開発の研修会や、県内優良先進事例や各市町村での特色ある取組内容の共有を図る研修等を行った。

学校給食に地場産物を活用する割合(%)

基準値 (令和元年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)
62.8	66.1	65

## (4) エシカル農業を支える消費者理解の促進

- とくしま食育フェスタ、「みんなが健康！県産食材料理レシピコンクール」、農作業体験ツアー等を実施することにより、食育推進に対する県民意識の醸成を図るとともに、生涯を通じた心身の健康や、持続可能な食を支える食育を推進した。

食育に関心を持っている人の割合(%)

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和9年度)
86.8	89.0	95

## 5 戦略目標の進捗

### (1) 化学農薬使用量(リスク換算)の低減

基準値 (令和2農薬年度 R1.10～R2.9)	実績値 (令和4農薬年度 R3.10～R4.9)	目標値 (令和12年度)
310	386 ※1、※2	279

※1 今回の実績については本計画の実施期間ではないが、参考として記載。

※2 県内で初めて確認されたサツマイモ基腐病や薬剤抵抗性害虫の発生等に対処するための緊急的な防除を実施したことに加え、化学農薬の価格高騰が見込まれていたことにより、令和4農薬年度に化学農薬を事前確保する動きがあり、増加。

### (2) 化学肥料使用量の低減

基準値 (平成28肥料年度 H28.7～H29.6)	実績値 (令和4肥料年度 R4.7～R5.6)	目標値 (令和12年度)
4,340t	2,885t ※	3,472t

※ 令和4年6月以降、化学肥料の価格高騰が見込まれていたことから、令和2・3肥料年度において、化学肥料を事前確保する動きがあり、減少。

### (3) 有機農業の面積拡大

基準値 (令和3年度)	実績値 (令和5年度)	目標値 (令和12年度)
0.55% ※1	0.67% ※2	1.5%

※1 有機農業面積 158 ha / 耕地面積 28,500 ha

※2 有機農業面積 185 ha / 耕地面積 27,500 ha

## 6 特定区域\*の取組状況

※環境負荷低減の取組を地域ぐるみで行う区域

特定区域	品目	取組状況
徳島市 川内町	れんこん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業者、JA、市が参画する「れんこん持続農業協議会」において、新たな技術の実証に取り組み、栽培マニュアルを作成               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 化学肥料の使用量低減に向けた堆肥や微生物資材を活用した土づくり</li> <li>② 省力化に向けた水管理システムの導入によるほ場管理</li> </ol> </li> <li>・ 新たな栽培体系の実施には一定の技術、労力や経費が必要となることから、今後、栽培マニュアルを見直し、継続的な実践と技術の普及を目指す (R5取組面積：10.8ha → R10目標面積：15ha)</li> </ul>
小松島市 田浦町 榑淵町 立江町 坂野町 和田島町	水稻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA、有機農家、地元企業、市等で構成する「小松島市生物多様性農業推進協議会」を中心に、水稻における有機農業の技術普及やブランディングを推進</li> <li>・ 栽培技術研修会、首都圏展示会におけるPR、市内小中学校の学校給食における有機栽培米の試行的提供を実施。栽培技術研修会や有機栽培米の学校給食における利用については、継続実施を検討</li> <li>・ JA東とくしま特別栽培米生産者部会において、有機栽培の取組拡大に向けた特定環境負荷低減事業活動計画を策定し、全国で2番目となる計画の認定を取得               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 秋期の稲わらすき込みによる腐熟促進</li> <li>② 有機質肥料の施用や畦畔除草等の実施</li> </ol> </li> </ul>
※ 令和6年度中に区域を市全域に拡大予定		
阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	水稻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA、農業法人、農業者グループ等による環境負荷低減に関する研究会を開催するとともに、独自の販売先を確保</li> <li>・ JA東とくしま特別栽培米生産者部会において、有機栽培の取組拡大に向けた特定環境負荷低減事業活動計画を策定し、全国で2番目となる計画の認定を取得 (R5取組面積：30.5ha → R10目標面積：34.9ha)</li> <li>・ 環境保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者を中心に、有機農業の取組拡大を推進</li> </ul>
阿波市 市場町 阿波町	野菜 水稻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別農家や農業法人を中心に、有機農業の理解促進活動や面的拡大を推進</li> <li>・ 阿波シティマラソン等のイベントや産直市での有機野菜等をPR</li> <li>・ ブロッコリーにおける環境負荷低減かつ省力的な防除体系を実践               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 有機質肥料の活用による化学肥料の低減</li> <li>② 生分解性マルチや農業用ドローンの活用による化学農薬の削減と省力化</li> </ol> </li> <li>・ 新たな技術導入により、追肥や除草作業の省力化等の効果が確認されたため、今後、作型に応じた技術普及を推進 (R5取組面積：1.2ha → R10目標面積：10ha)</li> </ul>
海陽町 野江地区 高園地区	きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA、町、県で組織する海部次世代園芸産地創生推進協議会が実施する「きゅうり塾」による担い手育成と連携し、環境制御技術と組み合わせたIPM技術を普及</li> <li>・ 複合的技術の活用による化学農薬の使用量削減と省力化を推進し、栽培マニュアルを作成               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 複合耐病性品種（褐斑病、うどんこ病）の導入</li> <li>② ミナミキロアザミウマに対する天敵（スワルスキーカブリダニ）</li> <li>③ ネコブセンチュウの防除に向けた太陽熱消毒</li> </ol> </li> <li>・ 今後、当該技術に防虫ネット、緑肥、環境制御技術等を組み合わせた栽培体系の確立を目指す (R4取組面積：1.5ha → R5取組面積：2ha → R9目標面積：3ha) ※ 特定区域外の海陽町の他地区と美波町を含む「JA徳島県かいふ胡瓜部会」の取組面積</li> </ul>